

〔国際会議〕

申 請 者	京都大学 大学院 エネルギー科学研究科 助教 石井 裕剛	2015001
研究集会名	The 21st International Conference on Artificial Reality and Telexistence	
開催期間	平成 23 年 11 月 28 日～11 月 30 日	
開催場所	大阪大学基礎工学部 国際棟	
申請者の役割	Financial Chair	

概 要：

本会議は、人工現実感とテレイグジスタンス（遠隔臨場感・存在感）に関する世界で最も歴史のある国際会議であり、今回が 21 回目の開催となる。対象とする研究は、機械操作訓練や機械操作支援にも応用可能な人工現実感、遠隔機械操作支援に資するテレイグジスタンスに加え、人と機械との間の新しいインタラクション形態を模索するユビキタス・ウェアラブルコンピューティング等、人と機械の調和の促進に関わる問題を多く扱う会議である。これらの研究分野は進歩が非常に速く、毎年定期的に世界の研究者・技術者が集い、情報交換を行うことは極めて重要であり、当会議はその適切な場を提供することを目的としている。

東日本大震災の影響で、例年と比べて参加者が減少することが懸念された中での開催であったが、フルペーパー 20 件、ポスター 21 件、デモ 17 件が採択され、例年よりも多い 113 名の参加者を集めた開催となり、参加者間で非常に活発な議論がなされた。

本会議では特に、Keynote 講演で「Toward Improved 3D Telepresence」と題して、遠隔地間で自由移動かつ裸眼立体視をしながらコミュニケーションできる最新のシステムが紹介され、また、災害時の遠隔ロボット操作に応用可能な技術として「TouchMe: An Augmented Reality Based Remote Robot Manipulation」が Honorable Mention に選ばれるなど、社会が早急に必要としている遠隔操作やコミュニケーションの技術レベルの向上が顕著である印象を受ける会議となった。